



ミズナ栽培における主な病害虫の防除

ミズナ栽培では、ハウスを利用して周年で長期に連作すると、土壌病害の立枯病やリゾクトニア病、萎凋病、軟腐病などが発生しやすくなります。また、茎葉病害では白さび病や菌核病など、害虫ではキスジノミハムシ、アブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類、ハイマダラノメイガなどが時期により発生します。

作期によって病害虫被害の発生が大きく異なりますので、作期ごとに病害虫の発生実態をよく整理し、作期ごとの適切な防除体系を組み立てることが重要になります。

<病害虫発生の特徴>

春または秋の低温多湿のときには、白さび病など茎葉病害が発生しやすくなります。また、土壌病害として圃場が多湿のときに立枯病やリゾクトニア病などの発生がみられ、さらに比較的高温期に萎凋病の発生が一部でみられます。

害虫では、キスジノミハムシが夏季を中心に長期に被害が発生し、アブラムシ類やハモグリバエ類は春と秋に発生しやすい傾向です。チョウ目幼虫のコナガやアオムシ、ヨトウムシ類も春と秋を中心に発生しますが、ハイマダラノメイガは夏季～初秋に被害が集中します。なお、これら害虫の防除が手遅れになると、大きな減収を招きます。

<防除対策のポイント>

ミズナには登録薬剤が少ないため、薬剤防除のみに頼らない総合防除が必要です。多湿条件が病害の発生を助長するため、圃場の排水不良の改善や高畦栽培を行い、過度の灌水を避けて適度な湿度条件に保つよう、ハウスやトンネル換気等の適正管理に努めます。発病株は早めに除去し、発病場所を中心に早めの薬剤防除を行います。なお、連作や土壌病害が発生した圃場では、除塩を兼ねて、夏季の還元型太陽熱土壌消毒などを実施しましょう。

害虫の対策には、ハウスやトンネルの開口部に防虫ネットを展張して、害虫の侵入を防ぐことが最も大切です。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺の雑草を除草するなど、圃場衛生に努めます。さらに、登録のある各種粒剤を播種または定植前に処理し、被害が発生したら早期の除去と薬剤防除を実施してください。

表1 ミズナ主要病害に対する主な防除薬剤

(令和4年9月14日現在)

対象病害					薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
根こぶ病	立枯病	リゾクトニア病	白さび病	軟腐病				
○					フロンサイド粉剤	30kg/10a 全面土壌混和	播種前/1回	29
	○				ダコニール1000	1,000倍液を3ℓ/m ² 土壌灌注	播種時/1回	M5
	○				タチガレン液剤	500倍液を3ℓ/m ² 土壌灌注	播種時/1回	32
		○			リゾレックス水和剤	1,000倍液を3ℓ/m ² 土壌灌注	播種時/1回	14
			○		ユニフォーム粒剤	9kg/10a 全面土壌混和	播種前または定植前/1回	4と11
			○		ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	21
			○		アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	11
			○	○	ジーファイン水和剤	1,000倍	収穫前日まで/ -	M1とNC
				○	Zポルドー	500倍	- / -	M1

注) 表1の分類欄にはFRACコード、表2にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ミズナ主要害虫に対する主な防除薬剤

(令和4年9月14日現在)

対象害虫					薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
アブラムシ類	アオムシ	コナガ	ハモグリバエ類	キスジノミハムシ				
○				○	スタークル粒剤	6kg/10a 播溝土壌混和	播種時/1回	4A
				○	ダイアジノン粒剤5	6kg/10a 全面土壌混和	播種時または定植時/1回	1B
				○	フォース粒剤	4kg/10a 全面土壌混和	播種時/1回	3A
○				○	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫7日前まで/1回	4A
○					ウララDF	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	29
	○				アディオオン乳剤	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	3A
○						3,000倍		
	○	○		○	プロフレアSC	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	30
	○	○	○		アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫7日前まで/3回以内	6
		○		○	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで/3回以内	22B
	○	○	○		スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで/1回	5
	○	○	○マハモグリバエ		カスケード乳剤	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	15
	○	○			エコマスターBT	1,000~2,000倍	収穫前日(発生初期)まで/ -	11A

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。